

## シンポジウム 2

### 「背景胃粘膜の応じた早期胃癌の診断と治療」

司会 後藤田 卓志（日本大学病院消化器内科）

藤崎 順子（がん研有明病院消化器内科）

「君は見ているだけで、観察というものをしていない。見ることと観察することは明確に違うのだよ。」はシャーロック・ホームズがワトソンに言った言葉である。早期胃癌の診断では、この言葉がピッタリである。日本人の殆どがピロリ感染していた時代は画一的な観察で良かった。現在の早期胃癌は様々な背景粘膜から発生する。つまり、“考えて”観察することが求められる。本シンポジウムでは、存在診断において知っておくべきこと、質的診断はどのように行うべきか、治療方針決定の為に量的診断、最終的な治療方針決定の各ステップについて議論を深めたい。なお、胃食道接合部癌についても募集したい。